

■ 岡山朝日高等学校の樹木

朝日高校の樹木について写真をまじえて少しばかり紹介します。第六高等学校由来の樹木はすべて開校（明治 33 年）以降に植栽されたものです。



昭和初年の正門脇のクスノキ (○の中)
一福酒造の煙突上からの撮影と推定。クスノキは六高本館 2 階の軒先にも届いていない。

正門と正門脇のクスノキ

平成 22 年に同窓会が支援して正門脇の植栽を移動、正門本来の広がりを感じられるようになった。同 26 年には同窓会創立 140 周年記念事業の一環として大正時代のレプリカである現門扉を新調、旧六高時代の姿にさらに近づいた。樹高約 24 m を誇る正門脇のクスノキは未だ樹齢 100 余年。巨大化したのは昭和末年からだ、今では紛れもない朝日高のシンボルツリーである。

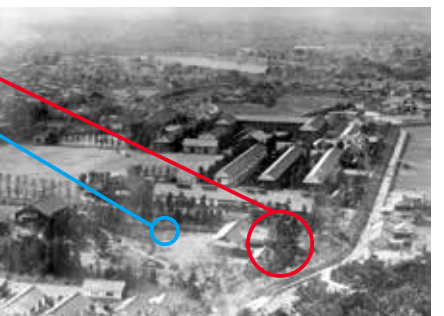
校地南西隅を縁取るソメイヨシノ

平成 16 年、校舎新築に先立ち鳥城高校舎脇のソメイヨシノ 16 本が校地南西辺に移植された。これだけの本数の移植は画期的で、専門家も訪れた。もともと、この桜は木造二階建校舎新築に伴い、昭和 20 年代末に植栽されたものである。

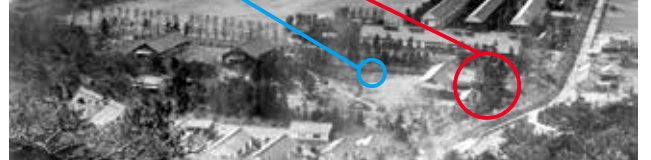


アメリカスズカケノキ (写真左側)

現在はかなり大きく剪定されたが、樹高は 17 m 程度はあった。下の写真にも微かだが写っている。大正半ばには移植されたようで樹齢は約 100 年。この樹木の日本への移入が明治末年であるから、国内では最古級の個体ということになる。



現在の校地・大正末期の校地 令和元年撮影（上）。大正 15 年文科乙類六高卒業アルバム掲載の写真（右）。右は 100 年程前の写真ということになるが、写真に写る木々の中で現在確認できるのは、六高記念館脇のクスノキやアメリカスズカケノキ、柔道場周辺の幾本かしかない。植栽は全くといってよいほど変化した。柔道場と東書庫は現役校舎であり、柔道場では日々、武道の授業が行われている。平成 23 年、正門や校地を取り巻く石積みとともに登録有形文化財に登録された。



校地南辺の風景

旧六高では生垣や校地を取り巻く石積上の植栽としてクロマツが多用されていたが、空襲で多くが失われたようで、ニセアカシアはその代替として植えられたとみられる。しかし、そのニセアカシアも平成 26 年にすべて伐採され、校地南辺はすっきりした眺めとなった。写真右端のメタセコイアは昭和 51 年頃の移植。当初は南門へと向かう通路の左右に植えられていた（運動場側のそれはのちにすべて伐採）。南北一直線に植えられているため、日照条件のよい南側ほど樹勢が強い。最南側のその樹高は 30 m に近い。